

第5回 高輪築堤跡整備基本計画策定委員会

議事要旨

I 開催概要

日時： 2024（令和6）年9月12日（木曜日）16時00分～18時00分

場所： JR東日本 会議室

出席者： 以下の通り

表出・欠席者一覧（※印はオンライン出席）

委員長	・中井 検裕 氏（東京工業大学 名誉教授）
副委員長	・鈴木 淳 氏（東京大学大学院 人文社会系研究科・文学部 教授）
委員	・内田 まほろ氏（一般財団法人 JR 東日本文化創造財団 TAKANAWA GATEWAY CITY 文化創造棟準備室 室長） ・小野田 滋 氏（公益財団法人 鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・高妻 洋成 氏（独立行政法人 国立文化財機構 文化財防災センター センター長 奈良文化財研究所 参与） ・古関 潤一 氏（東京大学 名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー） ※オ 矢ヶ崎 紀子氏（東京女子大学 現代教養学部 教授）
オブザーバー	※文化庁文化財第二課 ※文化庁文化資源活用課 東京都 教育庁 地域教育支援部 港区教育委員会事務局 教育推進部 港区街づくり支援部 ※公益財団法人 東日本鉄道文化財団 鉄道博物館 独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 技術監理部 【欠】 JR 東日本コンサルタンツ株式会社 品川駅北周辺地区市街地再開発準備組合 ※東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター 東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部
事務局	東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部
サポート	パシフィックコンサルタンツ株式会社

II 次第

- (1) 開会
- (2) 前回議事録確認
- (3) 議題内容と策定スケジュール
- (4) 第6章 整備基本計画
- (5) その他

III 議事要旨

1 開会

2 前回議事録確認

3 議題内容と策定スケジュール

- 大綱と基本方針にコンセプトを追加し、第6章を順序入替・統合することについて、異議なし。(委員全員)
- コンセプト等についての修文は、次回以降引き続きの宿題となるであろう。(委員)
- 全体の取りまとめは3月を予定している。ただし、分量が多くなることが想定されるため、提示できるところから出していきたい。(事務局)
← これまで第7橋梁部や信号機土台部等について詳細な議論をしてきたが、計画書に記述することで必ず取り組まなければならなくなるため、どこまで記載するかは事務局で検討してほしい。委員会は残り2回となるため、時間配分を考慮してもらいたい。(委員)

4 第6章 整備基本計画

(1) 高輪築堤跡の展示及び公開活用計画等について

- 今回と次回の2回で「展示施設のテーマ設定と展示手法」を示すこととし、今回は展示施設のテーマ設定に主眼を置き、ご意見を頂戴したい。

【資料中の表記等について】

- 「文化財の復元保存・移築」について、「復元保存」という言葉はあまり使わないため、「現地保存」と改めるべきである。(オブザーバー)
- 「水運と陸運の結節点として」とあるが、交差しているだけであり、結節点ではないと思う。(委員)

【展示活用計画について】

- 展示施設で伝える内容を厳密に分けているが、実際のところは、綺麗に分けることができない。展示施設については長いプランとなり、来街者の想定もし切れていないため、現段階で一旦セツトはするが、決定後に見直していけるような、柔軟な設計工程を組めると良い。(委員)
- 築堤だけで盛り上げていこうとすると限界がある。歴史文脈や鉄道文脈、明治の文化に興味を持ってもらえるようなムーブメントを作り、他施設にも新しい風が流れると良い。(委員)
- 近代から現代への繋がりが大事である。開業当時のことに関心が向くのは当然であるが、TAKANAWA GATEWAY CITYをつくることになったこと自体の説明もあとが良い。この土地がどのように生み出され、どのようなことを課題と捉え、それに対してどのように解決を図ってきたのか、JR東日本が企業として取り組んできたことについて誇りを持って語ってほしい。(委員)
- 本当は、新幹線が見えるポイントがあると尚良い。(委員)
- 近代化には発展の一方で、陰の部分もあったことを示す必要がある。(委員)
- 一定の時刻になると腕木式信号機が動き、蒸気機関車が走って来る音と警笛が聴こえる演出のように、子どもたちも楽しめる場所を作る必要がある。(委員)
- 高輪築堤の調査で発掘された出土品を展示する予定はあるか。(オブザーバー)

← 現時点で、どの施設で何を展示するかまでの深掘りはできていない。展示スペースに限りがあるため、常設で展示できるかなどについて要検討である。(事務局)

← 魅力を高めるためにも検討してほしい。(オブザーバー)

【公開・活用について】

- 特にインバウンド向けのガイドツアーが充実していると、より理解が進む。(委員)
- ユニークベニユアの展開について、都内の他のユニークベニユアとの差別化を図るため、この場がなぜ優れているのか説明できる必要がある。我が国の鉄道の「原点」であること、「イノベーション」が絶えず起こってきた地であること、その場所に多様な人々の「連携やパートナーシップ」によって高輪築堤が作られたことは、国際会議に出席される方に訴求できる要素であるため、これらを活用できると良い。(委員)
- ガイドツアーや学校教育(社会科見学)や生涯学習への活用について、教育の場として活用するとともに、維持管理の中で、サポートチームやボランティアの育成等にも繋げられると良い。(委員)

【その他】

- 維持管理等の担い手をどのように確保し、どのような運営をしていくのか。(委員)
 - ← 具体の検討は今後になるが、少なくとも JR 東日本グループが主体となり、確実な維持管理を行っていくことになる。(オブザーバー)
 - ← ガイドツアーにしても、グッズの開発にしても、専門性の高いタレントが必要である。マネジメントを上手くできるような会社や団体を設立しないと難しいのではないか。今後の運営の課題として、JR 東日本が中心となって考えてほしい。(委員)

(2) 信号機土台部の移築保存の検討について

- 今回の委員会では、①何を再現するか、②どこに再現するか、③どう再現するかについて、ご意見をいただきたい。

【再現する要素案について】

- 信号機土台部基礎の木については、再現する要素のうちどれに当たるのか。(オブザーバー)
 - ← 信号機を上まで再現すると見えなくなってしまうものであるため、再現する要素としては想定していない。(事務局)
 - 要素から外してしまうのはいかがなのか。レプリカ要素等、色々項目を作っていており、代替もできるのではないか。(オブザーバー)
 - ← どのように見せるかが非常に難しいところではあるが、検討する。(事務局)

【移築ならではの公開について】

- 笠石自体はオリジナルでないため、例えば笠石に腰を掛けてお茶を飲める、ということができると良い。(委員)
- 移築ならではの潔さを持った公開を検討すべきである。親しみを感じられる見え方や距離感になると良い。(委員)

【再現範囲について】

- 幅は 30m ちょうどである必要はなく、デザイン上適切な配置・見え方として、美しく設計できると良い。(委員)
- 西側の端部は再現範囲に収まらないため、端部を示せると開業期の築堤の規模感が伝わる。(オブザーバー)

【信号機土台部の再現高さについて】

- 主観的にはなるが、どこかで妥協することになる。(委員)
- 駅側・道路側の両方からの見え方が大切と考える。「信号機のようなものが見える」ところから始まり、降りてみよう、近づいてみようと思わせるような見せ方をできると良い。(委員)
- 誤解の招きにくさを考えると、オリジナルの高さではない方が良い。(委員)
- 史跡公開の数年後の公開となるため、全体のランドスケープや、来訪者たちがどのように戯れているのかを想像しながら、最終的な高さ決めを行えると良い。(委員)
- 総じて、オリジナルの高さとしない方が良いという意見であった。オリジナルの高さとしない場合、何に依拠してレベルを決めるのかが課題となる。例えば、障がいをお持ちの方が使いやすいように、周辺開発のレベルと揃えるなどの方向性を出していけると良い(委員)

【水域部構造の見せ方について】

- ガラス床にするというのは、アイデアと考えて良いか。(委員)
 - ← 上から見られるという点で、水を張るよりも良いのではないかと考えている。(事務局)
 - ← 維持管理がかなり大変であることや、礎石を避けてガラスを設置していく必要があること、見方によってはかえって邪魔になることもあり、ガラス床には難しい面もある(委員)
- 全てを群杭にするのではなく、一部は砂利敷きを再現し、その下に杭があることが分かるよう、2段階で見せられるとより良い。(委員)
- 水辺を再現し、2・3 街区で再現する水辺と連続しているように見せる方が、まちのランドスケープとしては効果があるのではないか。ランドスケープとしてガラス床はあまり楽しくない。水辺もあった方が良い。(委員)
- ガラス床について、ガラスは1枚のサイズが決まっている。全面をガラスとするほか、ブリッジ状にして渡れる箇所を作るとすることも考えられる。(委員)

【土層断面の再現について】

- 地質の状況が示されているのが望ましい。(委員)
- 是非断面を見せてほしい。実現できる前提として、高精細写真を貼り付ける予定か、観察記録に基づいて土で再現する予定か。(委員)
 - ← 未定である。最近では、質感まで表現できる写真技術もある。また、現地の土は残存していないため、同じような土で再現することも考えられる。(事務局)
 - 剥ぎ取りの試料はあるのか。(委員)
 - ← 信号機土台部検出位置から離れたところで採取したものがある。(事務局)
 - ← 剥ぎ取りの実試料は、再現部とセットでなくても良いため、どこかでは見せるようにしてほしい。耐久性の問題はあるが、メンテナンスを行えば、約40年程度は持つ。(委員)
- 信号機土台部の土層断面を見られるようにし、かつ剥ぎ取り試料をどこかで活用していただければ、築堤は、金太郎飴のように同じような土層を連続させて作ったわけではないことを示せると良い。(関係者)
- 信号機土台部の西側は調査していないため、実際の構造は不明である。周辺の調査結果から、おそらく土坡ではないかと推測できるが、その表現方法が課題である。(オブザーバー)

【計画書への記載について】

- 計画書にどこまで書くのかについて、委員会でなされた議論とは分けて考えると良いかもしれない。信号機土台部の移築については、これから実施設計を行っていくことになるため、ある程度の記載がなされていれば良い(委員)

- 今後実施設計をすることとなるので、計画書には細かく示さなくても良いと思う。(オブザーバー)

5 その他

(1) ワーキンググループ検討状況について (報告)

- 第 11 橋梁の写真について、右側にトラスが見えないのはなぜか。(オブザーバー)
 - ← 右側にも同じ構造部材があるが、映っていないものと思われる。(事務局)
- 第 7 橋梁について「単桁構造」という推定があったが、高欄は単なる飾りであったという見解か。(関係者)
 - ← 現代の基準による構造解析を行った結果、右下図のうち赤色部材があれば、応力的に破断はしない設計であったであろうということが分かった。(事務局)
- 第 7 橋梁の写真があるとうかがったが、分析の状況はどうなっているのか。(オブザーバー)
 - ← 今後、確認予定である。(事務局)

要旨以上